



山里ならではの体験
3月25日～4月1日、足助、旭、稲武、下山の各地区でセカンドスクール春フリー版が行われ、小学生約80人が自然の中で2日間を過ごしました。

センターは、旭地区で行われた「山っ子くらぶ」にスタッフとして参加。初対面の26名の子どもたちは、行きバスの中ですぐに仲良くなっていました。福蔵寺に到着し、グループに分かれてリーダーを交え自己紹介。まずは、お昼ご飯のための野草摘みに行きました。ヨモギ、ツクシ、ユキノシタなど食べら

れる草をいっぱい摘み、自分たちで天ぷらにして、薪で炊いたご飯にのせていただきました。後片付けをして遊んだ後は、旭高原元気村に移動し、牛とのふれあいの時間。飼育員さんのお話を聞いてから、餌やり、ブラッシング、聴診器で心音を聞いたり、みんな優しく牛に接していました。夕食は、水餃子を皮から手作りしました。ネギを切る子、皮をのぼす子、具を包む子、飽きて遊びに行く子もいます。夕飯をいただいた後は、星空観察・ナイトウォーク。みんな大はしゃぎでした。二日目の朝食は旭地区のてくてく農園の平飼卵と手作り

醤油で玉子かけご飯と、お味噌汁。その後、ゲレンデに移動し、雪ソリ遊びです。めいっぱい遊んだ後はカレー。最後は一人ずつ、2日間の感想を発表してもらいました。みんなの立派な発表に、感動しました。今回は豊田高専の学生もスタッフのお手伝いをしてくれ、子どもたちに大人気でした。

他の地区でも、農家民泊、餅つき、五平餅作り、石釜ピザ作り、魚釣り、草木染め、竹細工など、子どもたちは山里ならではの体験をして過ごしたようです。普段の生活の中で、今回経験したこと、感じたことを思い出してくれたらうれしいです。

セカンドスクール春フリー版



旭・足助 稲武・下山

ASAHI・ASUKE INABU SHIMOYAMA

子どもたちからはこんな感想がありました。

- * 普段はできないことが体験できてうれしかった。
- * ピザ作りや五平餅作りが楽しかった。お店で買うのよりおいしく感じた。
- * 違う学校の子と仲良くなれてうれしかった。
- * みんなで協力することが大切だと分かった。他

6月6日(土)開催!



グルメセンチュリーライド足助

アメリカオレゴン州ポートランドの自転車パーツメーカーであるCHRIS KINGが主催する「グルメセンチュリーライド」が6月6日(土)に日本初上陸。そのステージとして足助地区が選ばれました。名古屋市で自転車に関する様々なモノ、コトを取り扱うSim Worksと、NPOチャリンコ活用推進研究会から、おいでん・さんそんセンターに開催受入の相談があり、センターのコーディネートで開催の運びとなりました。

グルメセンチュリーライドとは、食と自転車をテーマに一日をまるまる贅沢に使って遊ぶプログラム。著名なシェフたちが腕によりをかけ現地の食材を調理し振る舞い、参加者は料理を堪能しながら約100キロの自転車コースの完走を目指します。センターが、調理が出来る施設の紹介、地元農家、自転車ルート、給水ポイントなどについてアドバイスさせていただきました。参加のためのチケットが、販売開始からわずか7分で国内分が完売したという大変人気のイベント。当日はセンターもお手伝いさせていただき予定なので後日様子を報告させていただきたいと思っております。

イベント情報

5/9 矢作川の日 川会議

【日時】5月9日(土) 矢作川の日 (5月の第2土曜日) 13:30～
【場所】古巣水辺公園(扶桑町/矢作川左岸)
【内容】矢作川では2001年に河川愛護諸団体により矢作川「川会議」実行委員会が組織され、毎年5月の第2土曜日を「矢作川の日」と定めて、川と人のよりよいつきあいを考える河川のシンポジウムを開催しています。第15回目となる今年は矢作川「川会議」のこれまでの振り返り、山～川～海の連携を強化して流域の環境と人々の暮らしをよりよいものにしていく道を探ります。皆さまのご来場をお待ちしています。参加申込みは不要です。
【シンポジウム】母なる川、矢作川のこれから 13:30～16:45
講演 「矢作川への想い」鈴木公平(前豊田市長)「矢作川「川会議」のふりかえり」碓さくら(矢作川「川会議」実行委員会代表)座談会「母なる川、矢作川のこれから」パネリスト/鈴木公平 今村豊(根羽村森林組合) 新見克也(矢作川「川会議」実行委員会) 石川金男(東幡豆漁業協同組合) コーディネーター/洲崎燈子(豊田市矢作川研究所)【交流会】17:00～(参加費1,500円)
【問合せ】豊田市矢作川研究所(電話0565-34-6860)
主催:矢作川「川会議」実行委員会 後援:国土交通省豊橋河川事務所、愛知県豊田加茂建設事務所、豊田市

5/31 小原歌舞伎40周年五月公演

【日時】5月31日(日) 開場9:30 開演10:00
【場所】小原交流館 ザ・小原座(豊田市永太郎町落681-1)
【小原歌舞伎とは】江戸時代中期、神社に奉納する地芝居として始まった小原歌舞伎は、農村の数少ない娯楽、地域芸能として地域各地に広まりました。小原歌舞伎保存会の人たちにより現在に受け継がれています。
【入場料】無料
【交通手段】とよたおいでんバス小原・豊田線「永太郎」より徒歩2分
【その他】小原商工会女性部によるお弁当等の販売があります。但し、小原交流館内にはほかに食堂、売店はございませんので昼食は各自ご用意ください。
【問合せ】小原交流館 0565-65-3711



その他の情報はセンターHPをチェック!

http://www.oiden-sanson.com/event/

センター長のミライのフツーンに向かって!

センター長 鈴木辰吉

獣害対策

1,415km。豊田市と東京都を2往復の距離が、豊田市内に設置されたイノシシ、シカ防除柵の総延長である。もはや柵なしの中山間地農業は考えられない状況にある。柵の中で人が暮らしているような、おおよそ美しいとは言えない農村の風景がフツーンになってしまった。

原因には諸説ある。地球温暖化による生存率上昇、キツネなど天敵減少、イノシシによる多産説などである。複合的な要因があると思われるが、農山村の過疎化による人口減少、森林の放棄と農地の未利用による、人と野生動物との生息領域の曖昧化が主要因ではないだろうか。かつて、奥山で生まれていた野生動物は、里に迷い出ることがあっても、奥山が生息領域であった。今日、里で生まれた野生動物は、里が生息領域なのである。

農山村の人口は今後も減少を続けると考えられるが、Uターン者や都市住民が新たに農山村に関わることで、人の暮らしの場であることを野生動物たちに示すことはできるはずである。農山村において、木材やバイオエタノールとして森の恵みを活用し、田畑を耕す暮らしを取り戻すことが、最も効果的な獣害対策になるものと思う。

子どもたちがあぜ道を走り回り、たんぼのドジョウやオタマジャクシを捕まえて遊ぶ、柵のない農村風景がフツーンに見られる地域を取り戻したいものである。

ほんわか里山交流まつりin笹戸温泉



旭

ASAHI

3月22日(日)、豊田市の山里の魅力満載の「第4回ほんわか里山交流まつりin 笹戸温泉」が行われました。好天に恵まれて多くの方に会場頂き賑わいました。

出店ブースでは、五平餅、鮎の塩焼き、ジビエ料理、手作りソーセージ、田舎汁、つきたて餅、オーガニック



参加者も踊りに加わり、大変な盛り上がりを見せたアフリカダンス&パーカッション『ジャラビカン』のステージ

コーヒー、焼き菓子、パン、木工品、苔鉢など地元のおいしいものや手作り品が販売されました。

ステージでは、棒の手・打ち囃子、大正琴、和太鼓、銭太鼓、日本舞踊、旭えとこ音頭、アフリカダンス、キッズダンス、コンサート、合唱、わらべうた、の披露が行われました。体験ブースでは、薪割り、木の表札やキーホルダー作り、竹で作るカトラリー、笹戸ウオーキング、木のおもちゃで遊べる子どもの遊び場や、整体治療など、様々な内容に参加者の方に体験していただきました。

今回初参加のアフリカパーカッション&ダンスのグループ『ジャラビカン』のステージでは、来場者も踊りに加わり大変盛り上がりしました。地元や市内はもとより、わざわざ名古屋から自転車で来られた方、このお祭りを一年楽しみに待っていた方、年齢層もほんとうに幅広い方に来場して頂きました。

来年は下山地区での開催です。お楽しみに！

プレオープンイナブ



稲武

INABU

4月11日(土)、稲武地区にあるトヨタケ工業(株)が、5月から4回連続PRイベントで年間開催予定の「オープンイナブ」のお試しバージョンとして「プレオープンイナブ」を開催し、豊田市内外から4組6人の参加がありました。

「オープンイナブ」とは、就業先(オープンファクトリー)も、空き家(オープンハウス)も、農地(オープンファーム)も確保できますよ、という3つのOPENをキーワードにした、稲武の暮らしや魅力を体験・イメージするためのプログラムです。

今回は、第1回に予定している内容を体験してもらい、参加者からの意見を反映して、プログラムの内容を高める為にプレ体験として行いました。

「オープンファーム」では、第2・3回で作付けや収穫体験をする予定の大野瀬梨野営農組合の圃場を見学しました。「オープンファクトリー」では、トヨタケ工業(株)の工場で、作業内容や工程を詳しく見学しました。「オープンハウス」では、空き家バン

ク制度の説明や野菜のいろは・野菜販売の手引きなどのセミナーが行われました。

今後の予定は、第1回5月9日(土)・第2回5月23日(土)・PRイベント5月24日(日)・第3回8月8日(土)・第4回日程未定となっております。

第2回以降、参加者の皆さんには、小物づくりのワークショップや農業体験をしていただく予定です。参加者募集のお知らせは、センターホームページ、またはフェイスブックページ『OPEN INABU』でもご覧いただけます。



大野瀬梨野営農組合の圃場を見学する参加者

おいでん・さんそんセンターのニューフェイス!



地域おこし協力隊 坂部友隆さん

tomotaka sakabe

4月1日より、おいでん・さんそんセンターで地域おこし協力隊(※1)として働くことになった坂部友隆さん。スタッフの小黒さんにインタビューしてもらいました。

センターに応募することになった経緯を教えてください。

前職は、東京で住宅メーカーに勤務していたのですが、転職したいという想いがありました。そんな折、今年の一月に本屋『『農的な生活がおもしろい(牧野篤・著)』(※2)という本を見つけました。豊田市出身なのですが、その本を読んで初めて豊田に中山間地があることを知り、興味を持ちました。掲載されていた旭地区に移住した戸田さんのことをインターネットで検索したりして、豊田市が地域おこし協力隊を募集していることを知り、応募しました。

どうして転職を希望していたのですか?



父親の影響で、造園の仕事をしたくて前職の住宅メーカーに就職しました。『優れたデザインの庭を作れば、住む人が幸福になる』と思っていたのですが、何千万円もかけて設計を担当した個人宅の庭が、数年で管理が行き届かなくなるのを目にし、『住む人の心が豊かになることで、庭を造り楽しむという営みが生まれるし、そうあるべきだ』と感じはじめ、前職をやり続けることに疑問を感じるようになりました。



センターでは、どんなことがやりたいですか?

過密な森林を間伐したり、放置される空き家を減らして、子どもの声が聞こえる地域を守ったり、中山間地でセンターが行っている取組みは、大きな枠組みでランドスケープデザインをしているように思え、庭造りと通じると感じています。結果として日本の素晴らしい里山景観を守ることにつながっていくのではないかと考えています。今までの経験を生かして、センターで働いていけたらと思っています。



都会に長く住まわれていたので、都会の人達の現状や、都会の人ならではの自然への渴望感もよくご存知だと思います。ご活躍を期待しています。



ありがとうございます。

※1 地域おこし協力隊：都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動し、生活の拠点を移した者を、地方自治体が「地域おこし協力隊員」として委嘱。隊員は、およそ1～3年、地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る総務省の取組。
※2 『農的な生活がおもしろい一年収200万円豊かに暮らす!』：2014年10月さくら舎より出版。2009～2012年に旭地区で行われた「若者よ田舎を目指そうプロジェクト」についても書かれている。

豊森なりわい塾公開講座 『これからの社会のカタチー何を大切に生きるのか』

まちなか

MACHINAKA

4月5日(日)、豊森なりわい塾の公開講座「これからの社会のカタチー何を大切に生きるのか」に参加しました。

農山村の地域再生にかかわる専門家として活躍されている小田切徳美氏、全国各地を旅して聞き書きを行い、失われゆく伝統文化・技術の記録に精力的に取り組まれている塩野米松氏を迎え講演が行われ、豊森実行委員長の澁澤寿一氏を交えたトークセッションが行われました。

豊田高専ドミタウン実行委員会 きよみ旅館片付け開始!



旭

ASAHI

ミライのフツー☆チャレンジコンテストに採択された豊田高専ドミタウン実行委員会による「もう一つのかぞくがつくる、豊田のふるさとー多世代交流による山村振興ー」が旭地区にて始動します。事業は、夏休みに笹戸町の空き旅館(きよみ旅館)で、市内の小学生15名程度と豊田高専学生が二泊三日の共同生活を実践しつつ、里山を用いた自然体験学習や地元住民との交流を進めていく、という内容。4月19日(日)には、舞台となる『きよみ旅館』の片付けが行われました。きよみ旅館では、他にも様々な取組が予定されており、今後が期待されます。